

地元金融機関調査資料

2018年12月

調査レポート名
百五経済研究所
「地域経済レポート」
2018年12月

概要（一部抜粋）

【三重県経済の動向】

〈現在の景気〉
緩やかに回復している。個人消費は持ち直し、生産は回復、雇用は高水準で推移。

〈当面の見通し〉
緩やかな回復が続く。生産の回復、設備投資のさらなる持ち直しが期待されるなか、雇用は高水準を維持し、所得環境の改善が期待される。

項目	動向	コメント
個人消費	持ち直し	10月の百貨店・スーパー販売額（既存店、速報）は前年比0.9%増で5か月連続の増加。
住宅建築	上向きつつある	10月の住宅着工戸数は、前年比9.0%減で5か月ぶりの減少。
設備投資	持ち直し	普通貨物（+3.6%）は3か月連続の増加、小型貨物（+6.4%）は2か月連続の増加
公共工事	横ばい	11月の公共工事請負件数は前年比1.1%増で2か月連続の増加。
輸出入	上向き	10月の県内2港の通関輸出額（速報）は、前年比9.0%増で6か月連続の増加。
生産活動	回復基調続く	生産用機械、輸送機械、家具などで上昇したが、電子部品・デバイス、金属製品、食料品などが低下
雇用情勢	高水準続く	10月の有効求人倍率（季調済）は1.69倍で、前月比0.01ポイント低下。

三十三総研
「調査レポート」
No. 94
2018年10月

「様々な問題が顕在化する住宅団地について～住民のコミュニティの形成が再生のカギ～」より

図表6 住宅団地の負のスパイラル

負のスパイラルが続くことで
団地としての存続が難しい状況に陥る恐れ

（資料）三十三総研作成

図表8 三重県内の100ha以上の大規模住宅団地の立地

（資料）国土交通省「住宅団地の実態及び住宅団地再生に係る支援について」を基に三十三総研作成

三重県信用金庫協会
「三重県しんきんレポート」
vol. 23
2018年10月

北部
北勢・伊賀の業況

業況は足元でプラスに転じ、9期連続してプラス基調が続いている。来期は僅かではあるが悪化の見通し

● 直近の業況
2018年7月～9月期の三重県北部の業況判断D1（実績）は6・7と、前期比4・1ポイントの改善となった。業種別では、サービス業、建設業、不動産業で改善、小売業、卸売業、製造業で悪化となった。

● 来期の見通し
2018年10月～12月期の三重県北部の業況判断D1（予想）は5・3で、当期比▲1・4ポイントで悪化の予想である。業種別では、卸売業、小売業で改善し、製造業、不動産業で横ばい、建設業、サービス業で悪化の予想である。

● 雇用（ピト）
人手不足判断D1は▲37・0（マイナスは人手「不足」超）と、前期比プラス11・2ポイントと2期連続で改善するも、依然高水準の人手不足が続いている。

● 設備投資（モノ）
設備投資実施企業割合は37・4%と、前期比3・1ポイントの改善となった。

● 資金繰り（カネ）
資金繰り判断D1は▲0・9と、前期比1・8ポイントの悪化となった。